

1 学校教育目標

「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと、豊かな人間性を持つ「地球(知究)市民」の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1)互いの人権を尊重しあう心の教育の充実
- (2)基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成(生徒指導の充実)
- (3)進路意識の高揚と進路目標の早期確立(進路指導の充実)
- (4)“生きる力”としての基礎学力の定着(授業の充実・教科指導力の向上)
- (5)生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成(健康・安全教育の充実)
- (6)特別支援教育及びインクルーシブ教育の充実
- (7)学校の魅力づくりとその情報発信による入学者数の増
- (8)学校における働き方改革

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校づくりに取り組む。	・本校の教育目標、教育活動を地域に発信し、志願者増を図れたか。	・体験入学の参加者数50人以上を目指す。 ・志願者数15人以上を目指す。	・学校案内パンフレット(A4)を作成し、天草管内の全19校の中学生全員(約2600人)に配付する。 ・各中学校で行われる高校説明会において、直接在校生による発表、または事前に撮影した在校生による発表を6校以上で行い倉校の魅力を伝える。	A	・学校案内パンフレット(A3二つ折り)を3000部作成し、夏休み及び中学校の高校説明会時に天草管内の全中学生に配付。11月には、ほとんど残部がなかったので、次年度は3500部程度作成したほうが良い。 ・倉岳中では在校生が直接、御所浦中、本渡東中、本渡中では撮影したメッセージを発表。卒業生によるメッセージは中学生への訴求力が高く、次年度も継続したい。 ・体験入学申込者数は中学校1～3年生合わせて79人(内、倉岳中学校外26人)、当日の参加者68人で、昨年度よりも増加。事後アンケートでは、50人が倉岳校に進学してみたいとの肯定的な回答有り。次年度は全校生徒による運営が必要。 ・3年ぶりに地区別(夜間)学校説明会(倉岳校、御所浦中、天草市民センター)で実施。延べ保護者11人、中学生1人、中学校職員9人の参加。次年度は7月～9月に実施する。
		・本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。	・U-KI60以上(内容のまとめり(単元等)あたりで、生徒が端末等を活用している授業の割合が60%以上)を目指す。	・職員を対象としたChromebook端末の活用研修に3名以上参加する。 ・ICT支援員や外部講師による職員研修を行い、各種アプリ等の活用方法を学ぶ。 ・学期毎に、教師のICT及び生徒		B

				<p>の端末の活用調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の端末活用力調査を年2回(5月、1月)行い、年間を通しての上昇度合いを把握する。 		<p>師のU-KI指数88.7%、生徒のU-KI指数69.0%と高い水準を維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の端末活用力調査結果では、基本的な操作やアプリの使用法について肯定的な回答が増加。
	<p>地域に根ざし、地域一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や同窓会、地域等と協働し、充実した学校行事ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンフェスタと秋桜祭にできるだけ多くの保護者に参加していただく。 ・マリンフェスタや秋桜祭で協働し、同窓会を身近に感じられる取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定を早めに伝えるとともに、内容の充実を図る。さらに、感染症対策に十分留意しつつも、可能な限り人数制限等は設けず、生徒の家族が行事に参加できるようにする。 ・同窓会と協働し、マリンフェスタではポロシャツを、秋桜祭では、新たにグッズを作成するなど生徒や保護者に同窓会を身近に感じてもらうようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンフェスタでは4年ぶりに保護者や同窓会の競技参加および育友会主催でバーベキューを実施した。また、秋桜祭でも4年ぶりに育友会主催で食品バザーを実施することができた。どの行事も多くの保護者に参加していただき、生徒も保護者も一体となり行事に取り組むことができた。 ・マリンフェスタに向けて同窓会のポロシャツ・タオル販売に協力することができた。また、秋桜祭では同窓会でリサイクルバザーを実施することができ、生徒や保護者の購入を通して同窓会活動の充実に協力することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開の促進は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの累計アクセス数、昨年度22万件を、25万件以上にする。 ・倉岳校の情報を地域に発信し、地域住民に学校をより一層理解してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新を週1回以上の頻度で行い、授業や学校行事をはじめとする学校生活の様子を動画で発信する。また、学校行事の更新の他にも、ゆるキャラのページを定期的に更新するなど魅力的なコンテンツを発信する。 ・内容を見直すとともに、SDGsのページを作り、授業や委員会活動などで行っている取組を発信する。 ・倉校新聞(年5回発行)を市政だよりにはさみ、倉岳町内の全世帯(約1000世帯)に配付するとともに、近隣中学校の各学級に配付し、掲示してもらう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPに関しては2日に1回以上の頻度で更新し、授業や学校行事など学校生活の様子を発信することができた。累計アクセス数は25万件を超えることができた。 ・学校行事の際はHPを通して、画像や動画を取り上げることができた。学校の魅力発信および行事への集客を発信することができた。 ・個別の学校説明や体験入学の申し込みをHP上のFormsで行うことができるようにし、より多くの人に閲覧してもらうことができた。 ・倉校新聞は年5回、倉岳町内の全世帯、近隣の中学校、地域の関係機関に配付し、地域の方々に教育活動の発信を行った。
<p>学力向上</p>	<p>生徒の基礎基本の定着と学力の向上に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各定期考査で欠点を1科目以上保有した生徒が目標を下回ったか。 ・各定期考査前の1日の平均学習時間で、3時間以上だった生徒が目標を上回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査での欠点保有者数10人未満を目指す。 ・考査1週間前平均学習時間3時間(180分)以上を全員年間1回以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が見通しを持って計画的に取り組めるように、学習時間調査を考査2週間前から実施する。学習時間調査の結果については、考査終 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も考査2週間前から実施。毎日Chromebookから入力できるシートも作成。集計結果は、考査終了後1週間以内にまとめ全職員に配付できた。 ・2学期期末考査までに考査前平均学習時間3時間

				<p>了後1週間以内にまとめ全職員で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式、終業式等で、生徒に学習時間の状況や定期考査での欠点保有者数等について提示し、学習への意欲を高める。 		<p>以上を1回以上達成した生徒は21人中18人で、全員1回以上は達成できていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の始業式と終業式で欠点保有者数等について周知できた。各考査の欠点保有者数は、1学期中間4人、期末6人、2学期中間5人、期末5人で昨年度よりも減少。次年度も継続したい。
		<p>・意欲的な読書の推進が図られたか。</p>	<p>・1月末までの生徒一人当たりの貸出冊数7冊以上を目指す。</p> <p>・4科目以上の授業での図書室や資料の活用を目指す。</p>	<p>・図書だよりを年間3回発行する。</p> <p>・朝読書が習慣となっているので、生徒個人の読書記録簿を活用して声かけ等を行い、さらに活性化させる。</p> <p>・図書購入を進め、蔵書の充実を図る。</p> <p>・各教科の調べ学習等でも図書室を利用してもらえるよう、呼びかける。</p> <p>・生徒たち自身がおすすめの本を紹介し合うコーナーを設置し、読書活動を支える。</p>	C	<p>・図書だよりはこれまで2回発行した。3学期に1回発行する。</p> <p>・生徒たちのおすすめの本は挙げてもらっており、今後も活用していく。</p> <p>・1月末での読書冊数の平均値は、本校の図書館外のものも合わせて7.3冊であった。図書室からの貸出冊数は7冊に届かなかった。</p> <p>・図書館の授業での利用は国語科とLHRで行われ、他教科での利用もしてもらえるように動く必要がある。</p> <p>・読書について生徒に声掛け等行うことがあまりできていなかった。</p> <p>・図書購入も早くにはできていない。</p> <p>・リクエストなどを受け、利用してもらえる図書室にしなければならない。</p>
<p>職員の学習指導の工夫改善に取り組む。</p>	<p>・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学の回数が目標に達したか。</p> <p>・倉岳校版学びのスタンダード『マナスタ』チェックリストの結果が上昇したか。</p>	<p>・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学を各教科で年間1回以上を目指す。</p> <p>・倉岳校版学びのスタンダード『マナスタ(生徒編)』のNo.4「振り返り」、No.9「わからないことを尋ねる」、No.15「積極的な発表」に関するチェックリストの比較において、肯定的な数値の上昇を目指す。</p>	<p>・スーパーティーチャーを含む各県立高校の公開授業を適宜案内するとともに、高教研の各部会主催の研究授業も含めた授業見学の回数を年度末に調査する。</p> <p>・『マナスタ』チェックリストを年3回(6月、10月、1月)実施し、その結果を全職員で共有する。</p> <p>・学びのUD通信を発行し、数値上昇につながるような取組を紹介する。</p> <p>・1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間の際は、各2回以上授業見学を行うようにし、授業の改善と充実</p>	B	<p>・各県立高校の公開授業や研究授業の授業見学の回数は、全職員で9回。</p> <p>・『マナスタ』チェックリストは、5月と12月に実施し、その結果を全職員で共有した。No.4は11ポイント程度低下、No.9は22ポイント程度上昇、No.15は3ポイント程度、肯定的な数値が上昇。</p> <p>・数値上昇につながるような取組の紹介する学びのUD通信は未発行。授業の振り返りの時間を確保した授業づくりが課題。</p> <p>・1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間の際は、各2回以上授業見学を行うことができた。</p>	

	基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力講座及び個別指導の充実が図れたか。 ・小論文指導の充実が図れたか。 ・対外模擬試験等の受験が学力向上につながったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の学びの基礎診断テストにおいて、6割以上の生徒が学力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、放課後10分間を使った基礎学力講座の実施する。 ・大学等への進学希望者、公務員希望者への個別指導の実施する。 ・小論文指導の充実のため、週に1回新聞記事を読み、意見を書かせる「朝コラム」の実施する。 ・対外模試を実施する。 ・学力検討会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力講座では、各学年の実態に応じた教材を使って、ほぼ毎日実施することができた。 ・個別指導について、平日、長期休業中に計画的に実施することで学力育成ができた。その結果、公務員、大学進学で合格者をそれぞれ出すことができた。 ・週に1回、「朝コラム」を実施し、表現力を身に付けさせた。今年度は模範解答を付け、先生方の添削指導の負担を軽減した。 ・3年生の大学進学希望者、公務員希望者に計画的に模擬試験を実施することができた。 ・学力検討会を2回実施し、全職員で共通理解を図ることができた。 ・高校生の学びの基礎診断テストについては、年1回4月実施のため、次年度受験の結果を見て、学力の伸び縮みを考察していく。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚と、適切な進路選択の支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路目標が達成できたか。 ・2年生は希望進路について、各自の具体的な進路目標を設定することができたか。 ・1年生は就職と進学の進路の希望が決定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路希望を100%実現する。 ・2年生は具体的な進路志望先を定めることができる。 ・1年生は進路希望の方向性(就職・進学など)を定めることができる。 ・進路に係る行事を学期に1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」の活用。自らの成長をポートフォリオさせる。 ・進路行事の充実。キャリア教育講演会、就職ガイダンス、インターシップ、校内分野別進路ガイダンスを実施し、進路意識の高揚を図る。 ・進路面談の充実。二者面談(学期1回)、三者面談(2年:冬休み、3年:夏休み)を実施し、生徒に必要な進路情報を提供する。 ・模擬面接の実施。2年生(3月)、3年生(4月以降)に実施し、実際の試験を想定して行うことで、意識の高揚を図る。 ・各種検定取得の推奨。英検、漢検、数検、家庭科技術検定、その他各 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア・パスポート」の活用について、生徒たちは各行事や講演会等で持参しメモを取り、自身の成長を振り返ることができた。今後はデジタル化させていくことを検討中。 ・就職、進学ともに3年生の進路希望を100%達成することができた。 ・進路行事を計画的に実施し、進路意識の高揚を図ることができた。今年度は、3年生を対象にジョブカフェから講師を招聘し模擬面接会を行うなど、新たな試みを行って更なる充実を図った。また、校外で行われる各種ガイダンス等にも積極的に参加し、進路意識の高揚を図った。 ・2年生は具体的な進路目標を、1年生はある程度の方向性を見いだすことができた。 ・学校評価アンケートの進路に関わる5項目はいずれも生徒・保護者ともに95%以上が「あてはまる」と答えており、充実した進

				種検定取得を勧め、進路目標達成の一助とする。		路指導を図ることができた。
	社会接続支援の充実に取り組む。	・コミュニケーション能力を育成できたか。 ・進路決定後の指導が十分行えたか。	・年1回以上の新社会人教育を実施する。 ・進路決定後も継続的に基礎学力を保障する。	・各種講演会(主権者教育、年金講話、新社会人セミナー、消費者教育)等を実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせる。 ・基礎学力の保障のため、進路決定後も基礎学力講座、個別指導を継続して行う。	A	・3年生に対して新社会人セミナーを実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせることができた。 ・進路決定後も基礎学力講座を継続し、基礎学力の定着を図ることができた。また大学進学希望者に対しても、推薦入試での合格後も個別指導を実施し、継続的に学力向上を図ることができた。
生徒指導	礼節を重んじた基本的生活習慣の確立に取り組む。	・「倉岳校生活規律訓」に則った規律ある生活が送れているか。	・生徒の自己評価アンケートで「生活規律訓」の各項目においてA・B評価90%以上を目指す。 ・服装頭髪検査において再検査者0を達成し継続する。	・全校集会等で「生活規律訓」の内容について話し、生徒が自らの生活と照らし合わせて生活規律訓に則った生活の継続及び改善に向けて考える機会を設ける。 ・日頃から全職員で細やかな指導を行い、服装頭髪検査前には各クラスで事前指導を徹底する。	A	・6項目のうち4項目(挨拶・掃除・話を聞く態度・服装)においてA・B評価の割合が100%であった。また、その他の2項目では、時間(90%)、進路達成への取組(95%)とA・B評価の割合が90%以上であり、6項目すべてにおいて高い評価であった。全職員で一貫した指導ができたことが高い評価結果につながった。しかし、時間(1年生1名・2年生1名)及び進路達成への取組(1年生1名)への質問項目において否定的回答も見られたため、今後も指導を徹底し、すべての生徒が生活規律訓を意識した生活を送れるようにする。 ・7月の服装頭髪検査で、2名の生徒が再検査を受けたのみで、昨年度と比較すると年間を通して再検査対象生徒は大幅に減少した。日頃から学年職員による細やかな指導が徹底できたためと考えられる。
	自ら考え、行動できる人間の育成を図る。	・よりよい学校を作るために全ての生徒が尽力しているか。 ・規範意識を持って生活を送っているか。	・生徒の学校評価アンケートで、「生徒会活動が活発である」のA・B評価90%以上を継続する。 ・年間を通して特別指導件数を0にする。	・よりよい学校づくりを目指し、各委員会でも少なくとも1つは新しい取り組みを行うよう促す。 ・全職員で細やかな指導を行い、生徒の小さな変化に対しても担任及び学年職員と情報共有し問題行動の未然防止を図る。	B	・活発な生徒会活動に対するA・B評価の割合は昨年度同様95%であった。高い結果となった背景には、生徒会役員の頑張りがあると考えられる。今後は、各委員会での活動もより活発にし、全校生徒で生徒会活動を活性化できるように全職員で指導していきたい。 ・特別な指導を要する事案は0件であった。すべての生徒が規範意識を持って落ち着いた学校生活を送れている。今後も担任を中心として全職員で情報共有を図り、問題行動

	社会に通用する人材の育成を目指す。	・ボランティア活動の推進が図られたか。 ・交通安全教育の推進が図られたか。	・校外のボランティア活動等に、全校生徒がそれぞれ1回以上参加する。 ・交通事故、交通違反の件数0件を継続する。	・毎朝の美化ボランティア活動の推進による習慣化と、校外ボランティア活動への呼びかけを積極的に行う。 ・交通規範意識向上のための交通講話や登下校指導を実施する。	B	の未然防止に努める。 ・毎朝実施した朝の清掃ボランティア活動では、1月22日時点でのべ1,661人の参加状況となっており、多くの生徒が環境美化に貢献することができた。こうした高い参加状況の背景には職員も一緒に清掃ボランティアに参加し、生徒の模範となっている。校外ボランティアでは、第2回笑顔くらんたけ交流会運営補助やあまくさ自然学校ボランティア等に参加することができた。しかし、生徒会役員の参加が中心で全校生徒が参加することはできなかった。全校生徒が積極的に参加できるようボランティアの周知方法を含めて改善していく必要がある。 ・倉岳駐在所の方からの交通講話をはじめ、各学期に下校指導を実施し、交通安全を呼びかけた。1月23日時点で交通事故及び違反件数は0件である。
人権教育の推進	互いの人権を尊重しあう心の教育の充実に取り組む。	・人権教育の推進が図られたか。	・人権教育推進委員会を年3回以上開く。 ・全職員が校外研修や人権関連行事に年1回以上参加する。 ・校内での職員研修を年2回以上実施する。	・各学期に人権教育推進委員会を開き研修や人権LHRの充実、情報の共有を図る。 ・校外研修や人権関連行事の情報提供を行い、積極的な参加を促す。 ・人権教育主任又は外部講師による職員研修を実施する。	A	・各学期に1回ずつ人権推進委員会を開き、人権LHRの内容検討や生徒情報の共有を行うことができた。 ・全職員が校外研修を年1回以上参加し、人権教育の知見を深めることができた。 ・人権教育主任による職員研修、及び外部講師による人権教育講話をそれぞれ1回ずつ実施することができた。
	命を大切にすることを育む指導の充実に取り組む。	・命を大切にすることを育む指導の充実が図られたか。	・命を大切にすることを育むための授業を年10時間程度実施し、「命」や「夢の実現」「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。	・各学年、教科と連携し、各学年別単元(ユニット)を構成して、計画的に指導を行えるようにする。 ・年度初めと年度末にアンケートを実施し、人権教育推進委員会で結果の分析を行う。その後職員会議等で生徒の「命」に対する考えや、ユニットを通しての変化を全職員で共有し、次年度の指導に生かす。	B	・年度はじめに各学年、教科と連携してユニットを構成し、先の見通しを立て計画的に指導することができた。 ・年度末のアンケートは3学期の人権LHR後に実施予定であり、結果を分析して生徒の実態を把握し、次年度の指導に生かしていく。 ・本年度の人権教育を通して、どのような変化が見られたかを職員にフィードバックする機会が少なかったため、次年度は情報共有の場を増やしていく。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針に	・いじめの未然防止が図られたか。	・職員研修(生徒理解含む)を年3	・研修の復講等を通して全職員の	B	・8月に職員研修「いじめ防止」を実施し、いじめの

	<p>則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。</p>		<p>回以上実施し、職員での共通理解を図る。 ・生徒の学校評価アンケートで「先生方に気軽に悩みを相談できる」のA・B評価80%以上を目指す。</p>	<p>意識向上を図る。 ・面談予約システムを運用し、誰もが気軽に職員へ相談できる環境を整える。</p>		<p>定義やいじめ問題への対応等について全職員で再確認することができた。 ・今年度より「先生方に気軽に悩みを相談できる」から「私には友人・家族・先生等悩みを相談できる人がいる」に質問項目が変更され、A・B評価の割合は90%と昨年度の64%から大幅に上昇した。しかし、2名の生徒(1年1名・2年1名)が「あまりあてはまらない」と回答しており、SOSの出し方に関する教育の更なる充実が必要である。また、面談予約システムを運用し、全校生徒へ携帯カードを配布して周知を行ったが、相談しやすい環境づくりを目指して今後も改善していく必要がある。</p>
		<p>・いじめの早期発見の取組が図られたか。</p>	<p>・こころのアンケート調査を年3回以上実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>・各学期(7月・12月・2月)にアンケートを実施し、結果を基にいじめ対策委員会で協議し、必要に応じて該当学年職員及び生徒指導部職員等で面談を行うなど、組織的に早期対応する。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」を全生徒活用できるように指導する。</p>	A	<p>・各学期1回、心のアンケートを実施し、アンケート結果を基に校内いじめ対策委員会で情報共有を行った。今年度のいじめ事案は0件であった。 ・全校集会でいじめ匿名サイト「スクールサイン」の使い方を説明し、必要に応じて活用できるようアプリの登録を行った。今年度の投稿はなかった。</p>
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	<p>学校行事における地域との交流の推進に取り組む。</p>	<p>・各年代との交流を深めることができたか。</p>	<p>・学校評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>・近隣の幼保小中行事や老人会、婦人会などとの交流行事を年間4回以上実施する。実施時には担任を始め、教師から地域のリーダーとしての自覚を持たせるための声かけを行い、主体的に参加させる。</p>	A	<p>・清掃ボランティア、合同避難訓練、老連会や婦人会との交流など地域との連携行事を合計4回実施することができ、学校評価アンケートの地域交流に関する項目で「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合は95%であった。 ・マリンフェスタや秋桜祭が一般公開され、生徒は地域の期待を背負い学校行事に臨んでおり、教師も生徒に倉岳町の高校生としての自覚を持たせるための声かけができた結果である。</p>
	<p>地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。</p>	<p>・地域連携の組織作りができたか。</p>	<p>・地域行事やボランティア活動への参加を生徒及び職員併せて年間5回以上行う。</p>	<p>・昨年度までコロナ禍の影響により地域行事やボランティア活動がほぼ実施されなかったため、具体的活動内容を示し</p>	B	<p>・幼保小中高合同清掃ボランティア活動に全校生徒、職員で参加し、地域の美化活動に取り組むことができた。また、3年生が倉岳町ふるさとまつりに参加し、地域の方々の前</p>

				た募集案内を作成し、参加させる。		でバケツを用いた演奏を披露することができた。その他、第2回笑顔くらんたけ交流会運営補助など地域行事に関わることができた。次年度は、より多くの生徒が活動に参加できるよう募集方法等の改善をしていく必要がある。
	総合型コミュニケーション	学校運営協議会からの意見に対し、改善を図れたか。	学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を充実する。	・学校運営協議会を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員への学校評価アンケートを実施する。	B	・生徒募集等、学校運営委員会でいただいた意見を教育活動改善に生かすことができた。 ・学校評価アンケートを実施し、そこで出た評価をもとに各部の反省及び今後の改善方策を行った。
保健・安全管理	心身ともに自己管理ができる生徒を育成する。	・心身の健康に対する意識が高まったか。	・心身の健康に関する講演会後のアンケートにおいて、「内容を理解できた」の回答を98%以上にする。 ・ストレス対処教育講話を開催し、自己管理能力を養う。 ・スクールカウンセラーによる面談を実施し、自身の健康を維持・向上させていく姿勢・力を育てる。	・心身の健康に関する講演会を年3回以上実施し、生徒の理解度確認のためのアンケートを実施する。 ・生徒保健委員と連携し、健康への意識向上のため保健だよりを年5回発行する。 ・ストレス対処教育講話を学年ごとに1回ずつ実施する。 ・担任との連絡を密にし、カウンセリングの必要な生徒に、確実に面談の機会を設ける。	A	・心身の健康に関する講演会を年4回実施できた。理解度アンケートの平均値は100%であった。 ・保健委員と連携し4回保健だよりを発行しており、残り1回も2月に発行する。今年度は片面を「心の健康」をテーマにした内容にし、心身の健康に対する意識の向上に役立てた。 ・学年ごとに実施したストレス対処教育講話で学んだことを、生徒たちは生活の中で生かしている。学年部やSCと連携を図り、より学年の実態に即した内容にしていくことが課題である。 ・「心のアンケート」の結果や個人面談の内容も踏まえて担任と連携をとり、必要な生徒にはSCやSSWと面談の機会を設けている。
	安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ。	・安全点検により事故を未然に防げたか。	・安全点検を年間3回実施し、事故件数0を継続する。 ・環境調査を行い、環境の整備を行う。	・長期休業中に全職員で安全点検を実施する。 ・生徒保健委員と連携し、水質や照度、二酸化炭素濃度、ダニアレルゲン等について環境調査を行う。 ・全校生徒を対象に、学校環境についてのアンケートを行う。	B	・安全点検は夏期・冬期休業中に実施し、3月に3度目を実施予定である。事故件数も0で継続できている。 ・生徒保健委員と連携し、各種環境調査を行っている。特に水質調査は当番を決め毎週実施できている。 ・環境アンケートについて、補修の必要な箇所は年度末までに改善する。
	良好な人間関係を構築するための態度やスキ	互いの良さや違いを認め合い、安心して自分を表現できる人間関係を構築できたか。	・高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の活動を継続して行い、よりよい人間関係を構	・全校会でのLHRにおいて「人間関係づくりワークショップ」を計画的に実施し、事後アンケートを行い	A	・「人間関係づくりワークショップ」は計画的に実施でき、生徒たちも積極的に参加していた。ロールプレイやグループワークを主体とすることによって、実

	ルを育成する。		築する力を育てる。	、コミュニケーション能力についての意識の変化を測る。		生活に向けての気づきを得ていた。 ・コミュニケーション能力についての意識の変化や必要なスキルをより詳しく測るために、事前アンケート等の実施を検討している。
	防災教育及び災害時の自助、互助公助の精神を養う。	・災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できたか。	・避難訓練を年間3回以上実施し、生徒及び職員の防災意識を高める。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合を100%にする。	・地震の避難訓練を2回、火災の避難訓練を1回行い、生徒の防災意識を向上させる。予告なしや教師がいない時に避難させるなど工夫する。 ・職員研修を実施し、職員の防災意識を向上させる。 ・訓練後に防災主任から防災講話やワークショップを行い、生徒の防災意識を高める。	B	・避難訓練は、地震の避難訓練を1回、火災の避難訓練を1回の合計2回の実施にとどまった。 ・今年度は中学校と協力して、地震の後に火災が発生する想定で訓練を行うことができた。 ・訓練後に消防署職員により消火器の使い方や119番通報の方法について講習があり、生徒も教師も参加し、防災意識を高めることができた。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合は100%であった。 ・防災主任からの防災講話やワークショップは実施することができず、地域防災の実情を考える機会を作ることができなかったため今後の課題としたい。
特別支援教育	特別支援教育の充実と支援体制を確立する。	・特別支援体制の確立ができたか。	・個別の教育支援計画及び指導計画の作成と、一人一人の教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供を行う。	・作成した個別の教育支援計画及び指導計画を全職員で共有するための時間を確保する。 ・生徒への対応の仕方や合理的配慮等について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回指導員より助言を受け、職員で共通理解を図り支援にあたる。	B	・年2回の生徒理解研修を通して生徒一人一人の教育的ニーズ等について全職員で共通理解を図り、適した支援や配慮を行っている。しかし、作成した個別の教育支援計画及び個別の指導計画は全職員で共有する機会を持っていないのが現状である。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を共有する機会の確保、また特性等に関する理解や指導法について、職員全体を対象とした研修機会の確保など、より組織的な特別支援体制の確立が課題である。 ・SCやSSWからの助言は、関係職員で共通理解を図り、支援にあたった。
業務改善・働き方改革	教職員が健康で公私ともに充実した人生を送ることがで	・働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革ができたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均月45時間以内にする。 ・年間15日以上の子休取得を目指す。	・月1回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日(4日間)を設ける。 併せて、部活動や個別指導がない日は積極的に定	B	・昨年度同様月1回の定時退勤日、8月12日(土)～15日(火)を学校閉庁日、部活動は、水曜日と休日の土日少なくとも1日を休業日としている。また、課題としては、12月末の

<p>きるよう体制を整備する。</p>		<p>・「学校DX化」に向け、ペーパーレス化を目指す。</p>	<p>時退勤を行うように声かけを行う。さらに、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。 ・「部活動に係る活動方針」に基づき、適正な練習時間を遵守し、指導の分担等を進める。 ・各会議・部会等の資料はデジタル化しクロームブック活用の定着を図る。</p>		<p>時点で、教職員の勤務時間外在校時間の平均は月42時間42分(昨年度41時間26分)である。昨年度より約1時間15分ほど超過している。 ・部活動における練習時間は、16時から17時30分までの約1時間30程度である。指導の分担に当たっては、公式戦遠征等で1人個人に負担がかかるの課題となる。 ・運営委員会・職員会議等の資料はデジタル化し、各教師のクロームブック持参で参加、また電子黒板及びプロジェクターを使用し会議の進行をしている。課題としては、各部会での定着を図ることである。</p>
---------------------	--	---------------------------------	---	--	---

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1)少人数の特色を生かした教育活動ができている。また、保護者、生徒の学校評価も高く信頼される学校づくりができている。</p> <p>(2)マリノフェスタや秋桜祭で見た生徒の姿は、一人一人が生き生きといて、よさが発揮されている。ふるさとまつりでは、進行だけでなく後片付けも頑張っていて感心した。学校評価アンケートから、「学校生活は楽しい」と答えた生徒の割合が高く、心の居場所のある学校づくりができていると感じた。</p> <p>(3)今回の資料から、貴校の取組の充実ぶりがうかがえる。特に、生徒が主体的に、能動的に、学習はもちろん行事やボランティア活動にも取り組み、自己有用感が高まっていること、そのことで保護者の評価も高いことが素晴らしい。</p> <p>(4)重点目標に沿って具体的対策が立てられており、中学校においても参考になった。また、中学校段階で身に付けさせる資質・能力を検討していくうえで大変役に立った。生徒の学校評価の結果で4と3の割合がとても高く、生徒の自己有用感の向上が感じられた。</p> <p>(5)学校評価における魅力ある学校づくりに取り組んだ成果として、中学生体験入学時のアンケート結果では、倉岳校への進学希望者が50人肯定的な意見だったとある。大変素晴らしいことであるため、この50人が引き続き入試まで倉岳校へ興味を示し、一人でも多くの入学が増える取り組みを進めていただきたい。</p>
--

<p>5 総合評価</p> <p>(1)学習指導に関しては、生徒一人一人に寄り添った指導がなされ、生徒用端末や電子黒板等のICT機器を積極的に取り入れた授業を展開し、わかりやすく工夫された授業を実施することができた。また、ICT支援員から個別に授業で使用するアプリ等の方法を学び、機器を有効に活用した授業計画の作成にも取り組んだ結果、生徒の端末活用力調査では、基本的な操作やアプリケーションの使用法について肯定的な回答が増加していた。</p> <p>(2)計画された進路関係の行事もほとんど実施でき、卒業後の職業観や進路意識の高揚を十分図ることができた。3年生の進路状況では、分校になってからは初めて、市役所職員への合格(税務職にも合格)が出るとともに全ての生徒が希望進路を達成できた。また、「Handy進路指導室」アプリの導入により求人票のデータ化を行い、生徒・保護者・職員の情報共有が図られている。</p> <p>(3)いじめの未然防止に向けて職員の共通認識のもと組織的かつ計画的に取り組むとともに、アンケートを基に早期に的確な対応を行った。さらに、今後も生徒の小さな変化に気づくために、2学期より「面談予約システム」の運用を開始し、教職員へ相談しやすい雰囲気作りと適切な対応に取り組んでいる。</p> <p>(4)コロナ禍以前と同等に、地域と連携した行事を行い、地域に信頼され、期待に応えられる学校づくりに取り組んでいることは評価できる。</p> <p>(5)生徒募集に係る説明会や体験入学案内ポスターの配布、学校新聞・ホームページによる発信、メディア等を通して、本校の特色や学習活動・学校行事の様子、入学後の生徒の変容等を広く周知することができた。</p>

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 多様な学力や特性のある生徒に対して、学力や生活習慣の基礎・基本の定着や良好な人間関係の構築に向けた指導の工夫・改善に取り組み、生徒が安心して学校生活を送れる環境作りを進める。特に、学びのUD化を促進するため、「マナスタ」チェックリストによる職員の共通理解の徹底と、「学びのUD通信」による生徒への周知を図り、「わかる」授業を構築するため、各教科での学習内容の理解が深まるような授業構築を目指す。
- (2) 外部組織や団体を活用して、進路意識の高揚と適切な進路選択、自己実現に向けての努力ができるように情報提供するとともに、生徒が意欲的に進路目標達成のために活動し、その実現に向けて計画的に取り組むことができるようにする。また、保護者との共通理解を図るため、「すぐー」等による情報配信を行い、生徒の希望・適性に応じた進路指導を目指す。
- (3) 生徒自ら挨拶や服装・態度など生活規律を正しく維持できるように、生徒・職員の共通理解のもと指導を行っていく。また、「面談予約システム」の運用の周知徹底を行い、いじめ等の早期発見・早期対応につなげるように工夫改善を行い、安全・安心な学校づくりを推進する。
- (4) 豊かな心を育むために校種や世代を超えた交流により体験の幅を広げ、行事や活動を通して地域及び育友会・同窓会との連携をより進めるために日頃からの情報交換を密にして、地域に信頼される学校づくりをより一層推進していく。
- (5) 上記の取組等を通して魅力ある学校づくりをさらに進め、地域行事・地域ボランティア等への生徒参加を行い、その成果を積極的にホームページ・学校新聞で発信し、入学者の増加を目指す。